

「ドングリの花(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

東京では5月上旬から中旬にかけて咲く「スダジイ」の花は、同じブナ科のクリの花とよく似ている。匂いも独特で、やはりクリの花にそっくりだ。



この「トラノオ」の花のように見えるのが、スダジイの花だ。スダジイには雄花と雌花があり、一つの木にある。これだけたくさん咲くので、風媒花のように見えるが、実は虫媒花である。



これが、雄花の一つを拡大したもの。10~15本の雄しべだけが密生しているが、中央には雌しべが見当たらない。虫媒花なので、中央には蜜腺があるのだろう。私はしばらく観察していたが、虫がとまる一瞬を見ることはできなかった。



雄花の花穂が下垂して密生するのに対し、雌花は単独で直立する。形状も全く異なり、竹ひごに米粒をくっつけたような形をしている。この粒の一つひとつが雌花で、このいくつかがドングリ(堅果)に育つ。



「スダジイの実」/C. Tanaka 画

スダジイが小学校理科の教材として扱われることはほとんどない。しかし、雌花(雌しべ)が受粉し、それが馴染みの深いドングリにまで成長していく様子は、なかなか面白そうだ。あの粒つぶの雌花が、どうやってドングリに育つのかを、継続して観察できたら、良い学習材になるだろう。ただ、スダジイの花や実は、高い枝につくことが多いので、子どもが観察するには、何らかの工夫が必要だろう。